

令和6年度第1回広島市スポーツ推進審議会 会議録

1 開催日時

令和6年8月27日（火） 10時00分～12時00分

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者

(1) 委員 20名中17名出席

市岡委員、伊藤委員、門脇委員、小西委員、下岡委員、砂橋委員、高畑委員、
武田委員、玉田委員、出口委員、中島委員、仁井委員、西野委員、服部委員、
麓委員、松田委員、渡部委員

（欠席：大前委員、古屋委員、田川委員）

(2) オブザーバー 3名中2名出席

角オブザーバー、三浦オブザーバー

（欠席：寺本オブザーバー）

(3) 事務局（市）

市民局長、スポーツ振興課長、健康福祉局保健部参与、教育委員会指導第一課長、教育委員会指導第二課長

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者

0人

6 会議内容

(1) 開会

(2) 市民局長あいさつ

(3) 議事

ア 令和5年度の主なスポーツ推進施策の取組状況について

イ 令和6年度の主なスポーツ推進施策及び予算について

ウ 「広島市スポーツ振興のための取組」に係る短期目標等の変更について

エ その他

(4) 閉会

7 会議資料

- ・ 令和6年度第1回広島市スポーツ推進審議会次第
- ・ 広島市スポーツ推進審議会委員等名簿
- ・ 令和6年度第1回広島市スポーツ推進審議会配席図
- ・ 議事関係資料

議事資料1-1：「広島市スポーツ振興のための取組」に掲げた推進施策の主な取組状況について（令和5年度）

議事資料1-2：数値目標の進捗状況と今後の方向性について

議事資料2-1：「広島市スポーツ振興のための取組」における令和6年度の主な取組について

議事資料 2－2：令和 6 年度スポーツ振興関係予算について

議事資料 3－1：「広島市スポーツ振興のための取組」における次期短期目標（令和 7～9 年度）の整理

議事資料 3－2：広島市スポーツ振興のための取組（短期目標等の変更後）

議事資料 3－3：（参考）長期・短期目標の実績の推移について

8 主な発言要旨

1 議事ア及び議事イについて

（事務局が資料 1、2 について説明）

○ 服部会長

ただいま事務局の方から説明がありましたが、分量も多いので、せっかく 4 つのスポーツ振興の 4 つの柱を立てていただいておりますので、それに沿って質問、ご意見等あれば伺っていききたいと思います。

まず、最初に地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興について、令和 5 年度の取組結果、さらには令和 6 年度の主な取組について、何かご質問、ご意見等あれば自由にお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

特に 1 年間一度も運動・スポーツをしない割合というのは、結構若い層に、データを見ると 18 歳、19 歳で「興味がない」というのが 50% という。もうちょっとあってもいいのかなという気もするのですが。今後の方向性として、そういったスポーツをしない人、初心者に向けての啓発活動等取り組んでいただくということになっております。

○ 砂橋委員

レクリエーション協会の砂橋です。資料 1 ページのところですね、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興というところの、右のページか。スポーツ・レクリエーション活動を支える組織や人材の育成、3 つ目のところですね。ここで、主な取組として、いろいろな振興計画や補助金の交付をされていますが、スポーツ推進委員の配置ということが書いてあります。人数が 3 名減っていますね。定数は 400 くらいだったと思いますが、充足率が低いですね。年々減ってきていますが、先程から指導者の育成が大事と言われながら、この広島市の運動を支えている、スポーツを支えているスポーツ推進委員さんの数が減っていることに対して何らかの手立てはあるのか。若しくは、減っている原因とかですね、どこに責任があるのか。まあ、責任と言えば語弊がありますね。どう言う風にしたら定足数に到達できるようなことができるのかなどのあたりが読み取れないので、この辺りをお聞かせいただければと思います。わかる範囲でいいです。

それと、派遣については、たくさんたくさんいらっしゃるんで、これについては、だんだんと上がってくるのでよろしいと思います。まあ、この人についてですね、例えばですが、三瓶の青少年交流の家に行った時に、競技力を高める、例えば陸上の合宿があったのですが、指導者の方は競技力も指導力もあるんですね。プラス、人間力といいまして、合宿をするにあたって道具を準備するとか、水を手配するとかといったときに、学生に人間の生き方というかそこを説いていらっしゃるということで、技術力と人間力両方を指導できる方が大事なところもあって、そういった意味ではこのスポーツ推進委員さんは、いつも研修に研修を重ねていらっしゃるんで、こういったところが広島市のスポーツを支えていく育成、大事なところだと思いますので、わかる範囲でお聞かせいただいたらと思います。以上です。

○ スポーツ振興課長

スポーツ推進委員ですが、おっしゃるとおり、ちょっと減っているということがございまして、地域スポーツには、我々、このスポーツ推進委員の方は欠かせないと思っています。例えば、地域の町内運動会とかそういうのに携わってくださっていると思いますが、実際、やってくださっている方は、もうずっと同じ方が連続してやってくださっているという実態があって、その方が、

高齢だから難しいだとか、あとは怪我したので難しいだとか、あとは、家庭の事情で難しくなったという方もいらっしゃるって、そこが減っていて。じゃあ、新しくどうやったら、こういった方々をやってくださることができるかというところが課題だと思いますが、各地域のスポーツ推進委員を取りまとめられている方と話したりもしますが、いわゆる地域活動に近いところもあって、なかなか担い手がないというところで大変苦慮しているところです。

我々としては、各地域の体育協会の会長さん等をお願いして、誰かいませんかという話をしつつ、今、どうすればそういう方々がやってくださるかというところが難しいところかなと思っています。

スポーツ推進委員の方は、少額ですが、月額8,000円くらい支払いをしている形になっていまして、実際、その8,000円のためにやっている方はいないと思います。活動するために必要なお金という程度で、今、共働きのところが以前に比べ増えていると思うので、実際そういう地域活動に参加すること事態が難しくなっている。これはスポーツだけじゃなくて、通常の町内会も言えるのではないかと。そういうふうに考えています。

先程のボランティアの人間力のところですが、おっしゃるとおりスポーツというのは、子どもと大人が関わるところに教育のところも人間力っていうのはあると思います。そういう力がある方が、子どもたちと接していただくというのは非常に大事だと思いますので、こういうスポーツ推進委員の方々もそういう立場になったりすると思いますので、リーダー研修や研究大会だとか、そういうのをやりながらですね、何かしらヒントなるようなことができればいいなと思っています。この研究大会では、代表の方が色々な地域に行って、だいたい全国の大会みたいな研究大会があるのですが、そこで聞いたことを持ち帰り、皆の前で発表して、知見を皆で分けていくというか、伝達していくようなことをされています。

○ 服部会長

何か育成事業みたいなことを計画するとかそういったことは難しいですかね。

○ スポーツ振興課長

今は特に無いのですが、今の意見を受けてですね、実態のところどうすればより良い活動ができるか、あとは新しい人が来てくれるかっていうのを、実際にスポーツ推進委員の方と話して考えてみたいと思います。

○ 服部会長

ありがとうございます。やっぱり、スポーツ推進委員の方は地域のスポーツ指導に欠かせない存在だと思いますので、しっかり充実させていくこともスポーツ振興にはすごく重要なことではないかなと思います。他に何かございますでしょうか。

○ 麓委員

2ページですが、下の方に、教員の体育指導の指導力向上に向けた研修会等の開催という記載がありますが、こちらの質問としましては、研修会というどういった研修なのかというところと、あと、参加人数が公立高校全体の先生が参加されたのか、私学は参加されていないのかというところをお聞かせできたらと思います。

○ 指導第二課長

こちらの研修については、広島市立の小学校のリーダーの先生方と、中学校の体育の先生方に限ってこの研修を行っています。2つ研修をやっております、体力づくり推進リーダー研修会と体力づくり講演会ということをやっていて、そのうちの一つ目の体力づくり推進リーダー研修会では、それぞれの実践研究校が小学校1校、中学校1校ありまして、実践研究校でやっている取組を、それぞれから実践発表してもらっています。その内容は大きく二つありまして、一つは家庭における体力向上の取組についてと、もう一つは学校における体力向上の取組、これを小・

中で一つずつ実践発表してもらっているのと、あとは、演習として、実際に実技で主運動との接続をはかった準備運動、これが小学校で行っている取組です。中学校では、体力の課題に応じた運動という体づくり運動のことについて、実際に実技で体を動かして、一緒にこうすれば体力向上につながるのではないかと研修を行っています。

体力づくり講演会については、講師の方に来ていただいて、体力づくりのところの講演をしていただいて、その後に、各校の取組の交流をするというような研修を実施しています。

○ 麓委員

例えば、サッカーだったり柔道だったり、テニスとかというところの専門的な競技の内容の研修というのは行われていないということですか。

○ 指導第二課長

これは体力の向上というところに関わることなので、部活動では全くなくて、全国の体力の調査が行われていて、その体力について小学校、中学校でどのようにして体力を向上させていくかというところに関わっての研修を、ここに記載していることになります。部活動の研修については、また別に部活動指導員に関する研修を今年度やっておりますので、そういった形で別にやっているため、ここの記載にはございません。

○ 服部会長

学校における体育・スポーツの充実の方の2つ目の柱にいてしまいましたが、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興の方については、よろしいでしょうか。

○ 西野委員

西野です。お世話になります。地域におけるスポーツ活動のところで、学校のプールの開放事業について教えていただきたいのですが、6～7月になると学校の方でプールが行われるかと思っています。その後、夏休みに入ると、これまでは、学校のプールの開放があり、子どもたちが泳ぎに行っていたかと思いますが、ニュース等でいろいろ学校のプールの老朽化などについても耳にしたりとか、あとは、この地球環境というかあまりにも暑すぎて授業でもプールが行われない、それに伴って夏休みのプール開放も行われているところが少ないというふうに聞いております。私自身、そのニュースをみてそうなのかというふうに、こどもにとってプールが嫌いなお子さんおられると思いますが、夏休みのプール活動というのは、こどもの頃とても楽しみだった記憶があります。実際にプールが使えないこどもが、夏休みになかなか外で遊べないところに関して、スポーツとはちょっと離れるかもしれませんが、どのように、水遊びと水中運動と関わっておられるのか。あと、関係あるかどうか分からないのですが、プールに行けないこどもさんが、例えば地域の川や海で遊ぶことによって、水の事故の怖さですね。そのあたりの教育というか、どのように繋げて子どもさんたちが安心・安全に水のスポーツと触れ合うかというところを、何か対策というか現状を教えてくださいましたらと思います。

○ スポーツ振興課長

まず、プール開放事業ですが、夏休み期間にプール施設を有効活用していることで元々始まった事業でございまして、コロナ前は、全部で小学校が140校くらいあるのですが、そのうち100校以上がプール開放事業をやっていたんです。コロナが始まって、令和2年度と令和3年度は、全面的に中止をしまして、令和4年度から再開をして、それぞれの学校にやってもいいよというような形で、今、監視員を広島市の方で2人雇用して、それ以外にも何人か、プール開放運営委員会みたいなものを作っていて、そこで見ていただくということをしているのですが、このコロナがあけると、いきなり学校の数が令和4年が11校で、コロナが収まってきて、それでも令和5年が17校で、そんな前みたいに戻っていない状況があります。なぜやってないかというと、やはり、監視員が負担となって、どうしても平日の日中になるので仕事を抜けてこないといけないとか、水

は事故も多いので結構プレッシャーもあるみたいで、PTAとしてやめようというのが増えている。あとは、先程暑さのこと言われていましたが、暑さ指数というのがあって、一定以上越えてしまうと、外での運動をやめてくださいというような、プールに関しては結構厳格にやっています、聞くところによるとせっかくやる日を決めていたのに半分以上この暑さ指数によって無くなってしまうというような状況があるらしくて、プールは何もなければ楽しいですが、事故があると、普通の体育・運動よりも重大な結果になってしまうおそれがあるので、そこを慎重になっているのだと思いますが、結構中止になっている場合が多いというのが実態です。

では、減っているのをどうするかということですが、プール開放事業については、それぞれの地域に、やるやらないは自由にお任せしているところです。水遊びについては、もし学校のプールができなかったら、市営プールがありますので、各区のスポーツセンターに行ったりだとか、プールも何箇所かありますのでそこに行っていただくのかなと思っています。川や海は、おっしゃる通り危険で、プール以上に大変危険なので、いろいろなところでニュースになっていますが、それに対する教育は学校で夏休み前に指導したりするんですかね。

○ 指導第一課長

一般的に夏休みに入る前には、川や海を含め行ってはいけない場所について注意をします。あとは、学校によっては着衣泳をやって、危なさや怖さなどを教えているところなどもあります。さらにNHKと学校が連携して、水中カメラマンの人が6月頃にきてくれて、それを職業としながらも水の怖さを教えてくださるといった取組など学校それぞれの努力にはなりますが、そういった指導をしているところもございます。

○ スポーツ振興課長

川や海が非常に危ないというのはわかっていますが、例えば、それを管理している管理者が、泳ぐのを禁止できるかといえばそれはそうではなくて、自由使用となっていますので、それより先は、最後は自己責任みたいなのがあります。

ただ、こどもはそれがわからず、サンダルが流れてそれを取りに行ったら流されたとか、予想せしないこともあったりしますので、気を付けるように呼び掛けるようなことも大事だと思います。

○ 服部会長

ありがとうございます。おそらくこどもたちの習い事の第1位が水泳教室だったと記憶していますが、親御さん共々「水泳」は興味もあるものだと思いますので、先ほどのスポーツ推進委員の人材不足という話もありましたが、そういうことを専門に教えられる人員を育成することは大切なことなのかなと思いました。その他で何かありますでしょうか。

○ 武田委員

先ほどのスポーツ推進委員のことですが、みなさん内容を御存じですか。僕、ほとんどスポーツ推進委員さんが何をされているかというのが、僕はスポーツ少年団とかをやっているのですが、そういう連携が取れていないし、スポーツ少年団はボランティアでやっていますが、先ほど言われたように謝金を貰ってやられているというから、えっというか、それならそれなりの動きが見えない。正直。体育協会の中でそういう活動をされているのだと思いますが、町で行事をされて、その内容をお手伝いされているのでしょうか、それが見えてこないんですよ。正直なところ。その辺がどうなのかなっていうのがあります。

○ スポーツ振興課長

スポーツ推進委員の活動がなかなかスポーツ少年団の立場からは見えてこないということですが、毎月ですね、報酬を支払うので、それに対して実績を確認しないといけないということで、毎月スポーツ推進委員の方から実績を市の方に出してもらっています。そういうのを見ると、どちらかというと、いわゆる体育協会など地元の方と関わる機会が多いかなと思います。スポーツ

少年団とは直接の関わりはないかもしれないですね。なので、もしかしたら地域のラジオ体操であるとか、区民スポーツ大会であるとか、そういう調整をされているのではないかなと思います。

○ 服部会長

ありがとうございます。地域スポーツを支えるという面から言えば、スポーツ少年団の方もスポーツ推進委員の方も学校の体育教員も含めて、そういった連携もこれからもしかしたら必要になってくるのかなといった気がします。

他に1番の方で、よろしいでしょうか。では、先ほど一つありましたけど、2番の方の「学校における体育・スポーツの充実」という面において、令和5年・6年度の取組について、特にあれば。

○ 松田委員

トップス広島の松田でございます。丁寧なご説明ありがとうございます。私からは、資料の5ページと6ページに関わる場所ですが、こどもたちの体力が、全国と比べても低い。かつ落ちてきているというのは、私自身ショックです。広島市内でも公園でボール遊びができないところが増えてきている等、運動が日常的にやりにくい環境というマイナス要素が増えてきているのは実感しています。とはいえ、都市部に比べると、まだまだ運動できる機会があるかと思っています。その中で、年々基礎体力が落ちていくということと、6ページでいうと、小学生の方は運動部やスポーツクラブに入っている割合は昨年度と比べると1ポイント上がっていますが、中学生になると、昨年度と比べると2ポイント近く、1.7ポイントほど下がっています。なんでだろうというのが正直な疑問です。全国平均と比べるとというのはそもそもどうなのかというのがありますが、逆にこのポイントが高い自治体は、どういうところで、どういう特徴があるのか。あるいは、広島市と同規模程度の政令指定都市と比較したときにどうなのか。みたいなことを深堀されたのがあれば教えてください。

○ 指導第一課長

今おっしゃったことについて、正直深堀している状況はなく、広島市の状況だけということになりますので、はっきりした理由が広島市の中だけでもわからないところです。例えば、全国体力の調査でいえば、こどもたちにとってマイナス要因で、タブレットであるとか、ゲームをする時間が確実に長くなっています。それに伴い、運動する時間が減っているとなったときに、習い事に行かせる親の体力や財力も影響してくると思います。まずは、委員がおっしゃったように政令市で同規模の都市でどのような状況であるのか、政令市であればいつでも聞くことができる状況にあるので調べてみたいと思っています。

○ 松田委員

個人的には、2つの可能性があると思っています。山口や岡山みたいに、人口が多くなく、岡山に関しては平野部でどこでも駆け回れる県であるから、高い可能性があるのではないかと思います。また、人口減少、少子化はどこのエリアも基本的には同じ問題ですから、東京都だけが、べらぼうに高く引っ張っているのでは。都内に住んでいる人はかなりの収入もあり、民間のスポーツクラブも非常に充実しています。こういったことから、もしかすると、大都市が全国平均を引っ張っているとすると、比較の仕方を単純に全国平均ではなく、正しい数値の見方で考え直す必要があるかもしれません。きちんとした対策をする上では現実的なのかなと思います。すみません。お手数をおかけするかもしれませんが。

○ 服部会長

あともう一つ、今、文科省なんかが小学校まで体育の専科を導入する、高学年から中学年までおろすという話が出ていたと思いますが、そういった動きについてはどうでしょうか。

○ 指導第一課長

小学校の専科指導というのを拡大するということになっています。今は5・6年生で専科指導を国から加配をもらって、教員の数をもらって実施をしています。ただ、教科的には、今おっしゃった体育、理科、算数、英語・外国語というのを優先する教科という言い方を文科省はしてまして、学校の実態に応じてそこは決めることができますが、5・6年生で見ると、体育の専科を置いているところの方が授業は充実しているようです。特に小学校は全教科を教えるので、もちろん苦手・不得意・得意があるので、そういった意味で3・4年生に専科が広がったときに体育を入れるという学校も増えるかなとは思っている。そこはただ学校の実態に応じて学校長が決める部分ではございます。

○ 服部会長

ありがとうございます。それこそ、こどもの運動嫌いをなくしたり、興味・関心を持つためにやっぱり専科で専門的に教えることはすごく重要なのかなと。また、それがスポーツの普及活動にもつながっていくのかなという気はします。学校における体育・スポーツの充実に関してそのほかございますでしょうか。

○ 出口委員

今のお話で、専科を置いている学校の方が他の教科も充実するというのはすごく興味深い話で、そういった話をもっと具体的に出していきながら、やはりそのスポーツと学力とか、あるいは体育と授業を受ける態度とか、その辺の関係というのは非常にあると思いますので、そういうデータも出して行って、学校における体育・スポーツの充実以前に、必要性とか重要性みたいなものを、我々がアピールしていかないと、教育現場でますます安全などを優先した時に、課外活動が地域移行化されたり、あるいは体育の授業をどんどん軽視する形になっていくんじゃないかと思っていますので、やはり良いデータをどんどん出していただければ良いのかなと感じました。

あとは、これも今の話と関連する、先ほどのスポーツ推進委員もそうですが、やはり我々がスポーツの必要性というものをもっと訴えていく中で、学校における体育・スポーツの在り方というのは、非常に重要だと思います。先ほどちょっと話をしましたように、中学の課外活動が地域移行化する背景には、やはり働き方改革とか色々あると思いますが、むしろ海外の人たちは、日本の学校における課外活動の良さとかを学びに来ていて、学校における日本の体育・スポーツの良さというものをもっと訴えていく必要があるんじゃないかと思う中で、もう少し教育現場と例えばこのスポーツ推進審議会あたりが連携して、もっと教員とかに働きかけるとか、もっと言えば教員の枠を増やしてもらうとか、体育・スポーツの必要性を訴えていくと結果的にそういう方向に進むんじゃないかと思っています。これは先ほどのスポーツ推進委員も同じで、そうしないと、どんどんどんどん充実どころか、学校における体育・スポーツの後退になっていくんじゃないかと感じております。教育委員会とか教育関係との連携というのは実際どうなっているのでしょうか。

○ スポーツ振興課長

連携というのは、この審議会と教育委員会の連携であったり、スポーツ振興課と教育委員会との連携でしょうか。

○ 出口委員

我々のこういう意見が、例えば教員を採用するとか、教員を司るような部門にちゃんと伝わっているのかというところです。まあ、人がいないとこういった事業は進められないと思いますが。

○ スポーツ振興課長

このスポーツ推進審議会の中で、スポーツ振興課と、教育委員会も来てくださっていて、スポーツ振興の取組で、四本柱の一つに学校が入っているというのは、学校での運動は欠かせない、部活動があったりだとか、体育の授業があったりだとかいうことで入ってもらっています。指導第一課と第二課の課長に来てもらっており、実際の現場でどういうふうに行っているか、どういうふうに行っているかというのはやってくださっていますが、例えば人事だとかそういうところまでは行ってないですね。

○ 指導第一課長

そういう御意見が出れば、できるできないという話にもなりますが、教育委員会の関係課にはきちんと伝えるという姿勢は持っています。

○ 出口委員

ぜひ、お願いしたいと思う。先ほどの講習とかはやらないといけないけど、絶対数が増えないことには変わっていかない部分もありますし、あとやっぱり、体力を学校で身に付ける重要な要因だと思うのですが、それを身に付けるのは他の教科では絶対無理なわけで、やっぱり体育とか課外活動となるとその辺からアプローチしていかないとなかなか人は増やしてもらえないのかなと思いました。

あともう1点は、これは相対的なことだと思いますが、先ほどからいろいろ議論される中で、例えばコロナだったり、あるいは猛暑だったり、働き方改革とか、世の中がどんどん変わっていく中で、以前あったものをどうしていくか大事なんですけど、根本的に改革を変えていくとか、もっと工夫していかないと今の時代対応できないのかなと、先ほどのプールの話でも、この季節、外でのスポーツというのは難しくなった場合、じゃあ室内のプールをいかに増やしていくとか、そういったことの工夫であったり、もうちょっと抜本的な改革を考えていかないといけないのかなというふうに感じていますので、毎年ちょっとずつ何か変えていくっていうことも必要ですが、抜本的な改革ということも考えた方がいいんじゃないかなと思いました。長くなりましたが、以上です。

○ 砂橋委員

砂橋です。去年も言ったのですが、この資料の書きぶりですが、去年の資料と今年の資料を早く来て、読み比べてみたのですが、やっぱりもう少し工夫があったらという意味で、まず2ページのところ。こどもの体力向上等ということで、小学校のところが、体力向上賞606人でマイナス326人減っているよと、去年はなぜ増えたか減ったかという理由はお伺いしたのですが、今年は、数字が増えた減ったという一喜一憂ではなくて、これは、数値目標プラス質の評価が見えたらありがたいなというところです。書きぶりとしてですね。つまり、これは、レベル的には1段階2段階3段階の3ですよとかですね。評価がないですよ。質の評価が。数値評価は数字を並べられていらっしゃるんですが、これができるかどうかなかなか難しいと思うのですが、やはりこれでいいとか満足していらっしゃるのかどうかの評価がそこそこに出てくるとありがたいなと思います。

2つ目は、5ページのところをみていただいたら、書きぶりとしては、例えば学校における体育スポーツということで、今後の方向性を丸の上から2つ目、授業改善について、体力アップ運動事例集の活用方法を伝達する実技研修を行う。ではこれが何回したのかですとか、そういったところが実はほしい。文章として読み取ると読み流してしまうのですが、去年の文章と読み比べてみても、ちょこちょこ文言は変わっていますが、やはり惜しい。つまり、そういった数字が見えたほうがいいってことと、もう一つ運動習慣の定着ということでいろんな課題に関して小中学校の指定校で成果のあった取組を体力づくり講演会を通じて全校に普及する。では何が分かって、何校に普及されたのかという数字が出てくると思う。この表に書きにくいにしても、重点目標で掲げたことを今後の方向性について新たに取組まれたことに関しては、トピックスとしてこんな成果が出ました、何校に普及しましたということが分かると我々も去年の資料を読

み比べなくても、そういったものがあるのかということで。これは書きぶりの問題なので、できる範囲でそういったことがみえたらありがたく思います。これは意見なので回答は分かる範囲で結構です。

○ 服部会長

はい。ありがとうございます。いろんな取組に関しての評価といいますか、目に見える形での報告があるといいとことで、また、努力していただければと思います。やはり、スポーツ振興に関して学校抜きに考えることはできないので学校の教員とか課外活動それから地域移行の問題もありますので、そういったところの中で、しっかり、学校の体育教員の質の向上ということも重要になってくるのではないかと思います。2番についてはその他の方よろしいでしょうか。それでは、3番についての競技力の向上の方について、何かご意見・ご質問等あればお願いします。

○ 渡部委員

広島市心身障害福祉センターの渡部と申します。競技力向上の中で、障害者の競技力の支援ということで、全国障害者スポーツ大会への派遣という形で書かれていますが、実は障害者スポーツ大会というのは日本独自の大会でありまして、これがパラリンピックにつながるというような大会ではないので、そこが競技力向上の目標であるのであれば、もう少しその上をいった本格的なパラリンピックとかの競技に向けての競技力向上の方に力を入れていただければありがたいかなと思っております。この全国障害者スポーツ大会は、どちらかというと言わなければならぬ障害者の社会参加の促進を目的にされていますので、ここで競技力向上ということではないということをはなかなかならないうことがあるといいますのでそういったところを着目していただければありがたいかなと思っております。これは、意見としてお聞きいただければと思います。

○ 服部会長

はい、ありがとうございます。そのほか。よろしくお願いします。

○ 砂橋委員

毎年この話は言っていますが、この枠の中で85万円というのは少ないですね。額が。例えば、1億とか数千万ある中で、載せているという意味がですね、見えないと去年も言ったと思うのですが。少なくとも0一個増やすとか。ほかの金額を見たらですね、例えばですね、2番の学校における体育スポーツの(2)休日部活動移行1,308万円ありますが、これ去年よりも3倍になっているですね。12ページのところでですね。失礼しました。去年より3倍になってませんか。400万で。どうですかね、ここのところ。まだあるんですよ。それとかですね、国際大会、4番のところ、まちづくりのところ、3,325万円とありますが、去年より1,000万円増えているんですね、おそらく。なので、枠として行政でですね、ほかに1,000万円とか1億円とかある中で、85万円と書いているということは、やはり額が少ないと思います。その理由としては、今さっき渡部さんもおっしゃってたのですが、指導者の育成なんかをポンと持ってくれば額が上がると思うんですね、なので、あまりにも限定しすぎているから、もう少し視点を広げて、何が指導力向上なのか、今言われたのは、大会の中身が違いうていうことを言われたと思うんですけど、去年もこの大会でこれだけ補助すると言われたんですけど、施策としてちょっと足りないという気がして、例えば先ほどから、指導者育成とあるから、パラリンピックとか障害者スポーツの指導者育成としてここにもってくるか、なんらかの方法があつてですね、そうしたら全体のバランスから見ても、少なくとも3桁に、または0一個増やすような事業レベルでのですね、意思が見えないと、やはり、障害者に対する広島市の行政というものの考え方がどうなのかなという思いはしております。意見として以上です。

○ 服部会長

なかなか予算が削られている中で、どこに傾斜配分させていくかっていうのは非常に難しい所ではありますが、もっとやはり障害者の方にも目を向けていけないといけないということです。ほかよろしいでしょうか。ちょっとやはり気になるのが、中学校の部活動、生徒の割合で、入部の入っている割合も、ちょっと若干低下気味であり、地域移行との関連もあるのかなと思いますが、よろしいでしょうか。

はい。それでは最後に4のまちの活力創出に向けてのスポーツ振興について、ご意見ご質問等あればお願いします。全体を通して、よろしいですか。(特になし。)

2 議事ウ及び議事エについて

(事務局が資料3について説明)

○ 服部会長

事務局の方から、ご説明していただきましたが、ご質問ご意見等あればお願いします。

○ 松田委員

学校における体育・スポーツの充実の短期目標が、国の目標が変わったということで新しく設定をしていらっしゃるんですが、これ時期によって全然違ってくると思います。時期というか季節ですね。いつぐらいの調査をされるのか。変な話、もう今のこの酷暑の中でいうと国が外出はやめてください、運動しないでくださいって言うてるそういうタイミングなのでこの時期は外して、最近では春も秋も本当に短いですが、みんながスポーツしたいよねって思うようなタイミングで一定期間の間でやってますかという調査なのか、どうなのかっていうところがちょっと。それによってだいたい数字が変わるだろうなというのがありましたものですから。

○ 指導第一課長

この質問は、全国体力のテストの中にある国が全ての調査なのですが、時期としては4月から7月にとっている調査で、聞いているのは、その特定の期間ではないので、こどものイメージからしたら、多分おしなべてだいたいこうかなというので、回答しているものというふうに考えていますので、あまり偏りはなくとれるかなと思っています。

○ 服部会長

他にございますか。

○ 麓委員

20ページのところになりますが、運動やスポーツが好きだと思う小中学生かなり結構高いパーセンテージが出てると思いますが、ただその実際好きに対して行っている時間が少ないというデータが出てまして、これがちょっと腑に落ちないといえますか、なんでこうゆうふうになっているのかなという。好きなんだったら多分やると思うのですが、実際やっている人が少ないと。時間がない、興味がないというところがあったと思うのですが。時間がない、じゃあなんで時間がないのか。例えばゲームだったりなのか、先ほどタブレットという意見が出たと思うのですが、それが勉強によって時間がないのかというところ。親御さんの送迎ができないからなのか。その詳しい具体的なデータがあれば教えていただけたらと思ひまして質問させていただきました。

○ 指導第一課長

具体的なデータ、分析はしていないのですが、例えば運動することがないということに関しては、理由は予想でしかないのですが、同じように国がやっている調査の先ほどおっしゃったようなスクリーンタイムのことだと、全国学力テストの質問項目には、勉強時間を聞いていたりするので、そうゆうのも併せてみていけば、勉強する時間が長いから運動、その因果関係は分かりませんが、関連した項目を並べながらこちらである程度想像することはできるのかなとは思ひます。

○ 服部会長

先ほどもちょっと言ったのですが、小学生の運動部やスポーツクラブに入っている割合というのが、徐々にコロナの前に戻りつつあるというか、上昇しているのですが、これ中学生がこのポイントが下がったという原因の分析というのはされていますか。

○ 指導第二課長

原因の分析とまではいいないのですが、今生徒数も減ってきているのもあって、学校の部活動数自体が減ってきているという状況があります。930部活くらいあるのが少し減っているという状況ではあるのですが、そういったことも影響して自分のやりたい部活動に入れていないというのもあるでしょうし、それ以外としても、スポーツクラブに所属すれば別段その学校の部活動でなくても活動している実態はあると思うので、この数パーセントが減ったと大きく捉えることがどうなのかなというところがちょっと今感じているところでございます。これが年々どんどん広がっていく予兆なのか、また復活するようになるのかというのが、先ほど言った地域移行の問題で、地域スポーツの方に流れて部活動の方に入っていないとか、地域スポーツに流れたことが、この数値には運動部もスポーツクラブも入っているんですね。そこへ流れたら別段その数値が下がるということにはつながっているわけではないと思います。やはりこの2パーセントっていうのがコロナの関係で、運動の機会が減少し、活動に参加しようっていう気持ちが出てきてないというところはあるかもしれないですね。今部活動もみんなが全員加入ということではなく任意になっていますので、そこの部分で生徒の気持ちがどうなっているかが課題なのかなとは思います。

○ 出口委員

今の話で学校の部活動が地域に移行することによって、そのままスライドするっていうふうには思われがちですが、やっぱり学校の中でやるからスポーツをしようってことで、部活に入る生徒がいるのですが、これは敢えて社会に出てクラブに入るとかあるいはその気に入らなかったらすぐ辞めてしまうケースも多いですし、あるいは場合によってはお金をとってやるっていうケースがあるので、そのまま人数が移行するっていうのは絶対にありえないと思います。だからその辺りをやはり我々だけでは分からない部分ではあるので、学校現場とか教育現場の方も場合によってはこういう委員会に入っていただいて、議論していかないとまあそこに一つのギャップができてしまうのではないかというふうには思います。あとやっぱり、その働き方改革に拍車がかかっていますし、コロナの時に、まあ体育はあんまりそうじゃないかもしれないけど、例えばオンラインであったり、そういう授業に移行された、まあ中学校わからないのですが、体育でも実技をしない代わりに、別の授業に置き換えてたものがコロナが収まってそのまま継続されてるってケースもあると聞きますので、その辺りの現状をもうちょっと詳しく把握した上で、こういうデータの読み方とかを検討していく必要があるのではないかというには思っていました。以上です。

○ 服部会長

ありがとうございます。地域移行ってなったりするとやはり経費の問題もあって、学校運動部でできていたのが、地域に出ることで経費がかかる、だからできなくなるっていうケースもあるって聞いたりもしているので、やはりこの一喜一憂することではないと思うのですが、注視していきたいなと思っております。

はい、その他ございますでしょうか。それでは一旦、この広島市のスポーツ振興のための取組に係わる短期目標の変更については事務局の提案どおり決定してよろしいでしょうか。

○ 全委員

異議なし。

○ 服部会長

はい、ありがとうございます。それで原案どおりで決定ということでありがとうございます。次に、その他4についてですが、全般的にスポーツ振興の取組に関することについて何かご意見等あれば伺いしたいと思うのですが。よろしいでしょうか。(特になし。)

はい、それでは本日予定しておりました議事は以上です。ありがとうございました。